

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。 (※夏季休業期間の変更に伴う教育課程編成の工夫を含む)	B	「進んで学習する子」「仲よく助け合う子」「健康で明るい子」の育成を目指し、学校長のリーダーシップの下、全職員で話し合い共通理解を図り進めてきた。また、夏季休業期間の変更に伴い、8月中に一斉下校と避難訓練を実施し2学期の生徒指導に役立てるようにした。さらに見える化を推進し説明責任を果たしていく。	A	・学校のホームページは見やすくわかりやすい。子供たちの様子が関係者にもわかりありがたい。 ・学校全体でよく検討され、様々な工夫を目標達成に向けて取り組んでいることが伺われる。 ・さらに個々の教員の関わりが見えないので、結果や成果等も含め視覚化ができるとよい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	避難訓練は地震、火災、不審者対応、竜巻、そして授業中、休み時間、清掃活動中と、多様な場面で実施した。いじめや虐待については、組織的に迅速に関係機関とも連携し対応することができた。不審者メールや台風による下校時間の変更メールなど積極的に学校メールを活用し情報提供に努めた。	B	・集団登校・下校等はよくできている。不審者情報は学校メールによりすぐ知ることができるのでありがたい。 ・いじめに対して真剣に取り組むとともに、未然防止のために各担当が学級づくりに努力している。 ・体育館にエアコンが整備され避難所としての機能が強化された。危機管理マニュアル等見直しが必要である。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	市の研究開発学校の指定を受け算数科における基礎学力の定着と意欲の向上に取り組んだ。授業においては自力解決と振り返りを重視し、ノート指導にも力を入れた。また、いきいきタイム(朝の時間)を週2回設定し算数の基礎基本の定着に取り組んでいる。さらに読み取る力を高めていきたい。	B	・計算や漢字など練習を繰り返すことにより基礎学力が身に付くよう指導していただいている。 ・授業に学習支援員やボランティアなどを活用しているが、行い方や活用方法など工夫の余地がある。 ・算数では、少人数指導など子供の能力に合わせた授業を行っていただいている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、算数科の授業実践では自主的に学べる算数コーナーの設置、思考力を向上させるステップアップ支援や児童が学び合うリレー発表などの工夫を行った。県学力・学習状況調査の分析結果を踏まえ、一人一人を伸ばす授業を実践していきたい。	A	・内容により少人数指導を取り入れたり机の配置を変えたりするなど授業改善に努めている。 ・この項目の児童の評価は高かったが、どれだけ効果が上がったのか客観的に測定できるとよい。 ・夏・冬休みのちやれんじスタディは子供たちの意欲を高め、学力向上に役立っていると思う。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	集会や授業開始時にはほとんどの児童が大きな声で挨拶ができる。登校時でもできる児童が増えてきたが、二極化が見られ、地域の方や交通指導員さんへの挨拶ができない児童が多い。また、廊下歩行や清掃時間の無駄話などに課題がある。、今後も粘り強く全教職員で指導していく。	B	・規律が身に付いている子が多く、日頃の先生方の指導の成果だが、全員に徹底させることは困難であろう。 ・学校だけで身に付けさせることは難しいので、家庭のしつけや教育が重要である。 ・朝の挨拶運動では、多くの児童が気持ちのよい挨拶を返してくれるができない児童もいる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	挨拶については、教職員だけでなく児童会や学校応援団も参画し定期的に取り組んできた。靴そろえについては、「くつピタ週間」の重点的な実施や声かけ、またできているクラスを賞賛し意欲付けることでできるようになってきた。廊下歩行については、児童の見守り活動も行った。身に付くように全職員で声をかけていく。	A	・どの児童の靴も、下駄箱の中にきちんと収まり「くつピタ」ができていて素晴らしい。 ・学年に応じ、低学年ではより具体的に、高学年では自分で考え行動する指導を行っていただいている。 ・規律ある態度は、すぐには身に付かないので忍耐力を持って続けることが必要である。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	体育部を中心に、それぞれの単元で元気に楽しい体育授業を工夫している。また、外遊びの奨励や縄跳び・マラソンの意欲付けも行い、自主的に取り組む児童も増えてきた。	A	・マラソンやなわとびなどの取組では、大会や記録会も設定し児童が自ら身体を動かすよう働きかけている。 ・休み時間や昼休みに多くの児童が校庭に出て遊んでいて、学校に活気がある。 ・体育の授業では、意欲的にやる子とやらない子の二極化が見られる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	前年度の新体力テストの課題に対応させ補強運動や体育コーナー、運動委員会主催の運動教室などの取組をしてきた。課題であった握力は県の平均値を超えることができた。今年度の課題である跳躍力向上に向けて、各クラスにゴムを配布しゴム跳び遊びを奨励したり補強運動を工夫したりしている。	B	・児童の体力を比較分析し、体力を高めるために鉄棒やボール投げを意図的に行っているところがよい。 ・朝や20分休み、昼休みに、クラスごとに校庭や体育館を活用し運動や遊び、レクを行っている。 ・思い切り体を動かすように運動量や機会を確保したいが、児童の数が多いので調整が難しい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	学校の地域連携推進担当が地域の学校応援団コーディネーターと連携し、各担任のニーズと地域の思いを調整することができてきたので、継続・充実させる。地域連携推進委員会が行っている「ちやれんじスタディ」も組織的に運営できるようになってきた。多くの支援者・協力者の参画の下、児童の学習活動が充実した。	A	・学校メールにより行事の案内や手伝いの募集が配信され、学校の状況がわかりやすくなった。 ・ちやれんじスタディや野菜作りなど、学校と保護者、地域が連携し行っている行事が多い。 ・今後、相互に意見交換を緊密に行い、目的意識の共有や共通理解などがもっと進むとよい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	学校メールを活用し多くの方の参画をいただくことができています。スクールガードのネームプレートを配付し地域で見守りやパトロールを行っていただいている。ボランティアとして登下校の見守り活動を実施していただいている方も多くいる。安全マップを生かすために、PTAに働きかけ参画を推進していく。	B	・PTAや学校応援団が主催する行事もあり、地域の方や学校応援団、保護者が協力している。 ・多くの保護者の協力が得られるように、共有感や連携意識を高め、さらに健全育成まで進めたい。 ・地域の高齢者(施設)との交流の機会がなくなっているため、子供の健全育成のためにもつくってもらいたい。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満